

**東日本大震災と福島第一原発事故からまる7年、また3月11日がやって来た【福島版】
関連死2,200人を越え 直接死1,605人を上回る**

「福島県内の市町村が関連死と認定した死者数は2月20日現在、2,211人に上り、昨年2月末時点より82人増えた。地震や津波で死亡した直接市の1,605人を606人上回り、福島県内の直接死と関連死、死亡届が出された人を含めた死者数4,040人の約66%を占めている」

今なお避難者5万人越える ピーク時に比べ3分の1以下に

「東日本大震災と東京電力福島第一原発事故に伴う避難者数は1月末現在、県内外合わせて50,534人で、最も多かった2012（平成24）年時に比べて3分の1以下まで減少した。災害公営住宅の整備が進み、仮設住宅の入居者もピーク時から9割ほど減ったが、依然として多くの県民が避難生活を強いられる状況が続く。原発事故を要因とする震災関連死は増え続けている。高齢者を中心とした体調や心のケア、見守り体制の構築などが一段と求められている。」（「福島民報」18年3月3日付け）

5町村が今春学校再開 古里で学ぶ環境整う しかし生徒の多くは還らず

子ども達が還ってこない町に果たして未来はあるのか！【帰還する小中学校の生徒数】

	小学生	中学生	
富岡町	14人	2人	生徒数 原発事故前 約1,400人、現在 約900人
浪江町	5人	2人	
葛尾村	7人	11人	
川俣町山木屋地区	5人	10人	
飯館村	33人	44人	*避難先の小中学校をこの3月で閉鎖

去年3・4月に避難指示が解除された双葉郡の5町村では、今年4月から町村内に小中学校が開校します。各学校では、小中一貫教育や独自の授業プログラムを設けて、生徒の帰還を促しました。しかし、生徒の多くは帰還しないで、避難先での通学を決めました。その理由は、転向すると、①友達と別れなければならない、②1学年で1人や2人では友達が出来ない、③運動会や学芸会はどうなるのか、④塾や稽古ごとができない、等です。また、7年が経って、両親は避難先で生活を再建している、放射線が高いので子どもの健康が心配、等の事情もあります。

表を見て下さい、**富岡町**では、原発事故前は約1,400人、現在では約900人の小中学生がいた（いる）のに、町に還ってくる生徒は16人です。

飯館村は77人と、他の町村と比べて人数が多いです。しかし、他の4町村では避難先の小中学校をこの4月からも継続するのに対して、飯館村では、避難先の小中学校を閉鎖することに拠ります。77人の生徒の内、帰還する生徒は約1割です。9割の生徒は、避難先から片道約1時間かけて通学します。飯館村では、避難先と小中学校を結ぶ

スクールバスを 11 コース計画しています。

【原発事故で津波の災害救助が 1 カ月中止、原発事故が無ければ救えた命があったかも（浪江町の慰霊碑）】



【津波の死者 636 人、原発事故の震災関連死 507 人（南相馬市の 3・11 追悼式）】



【お詫び】「双葉通信第 45 号」埼玉県議会での原発再稼働の意見書について、公明党の議員も賛成と書きましたが、公明党の議員は反対でした。お詫びして訂正します。